

若者のスポーツボランティア意識向上のために  
－SNSを活用した情報発信－

江戸川大学 小林ゼミA

◎小林優斗 ○齋藤聡 ○庄司理生 ○宮川幸大 ○宮本浩太郎

## 1. 緒言

我が国では、2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催される。それに伴い、スポーツボランティアの活躍が期待される。東京オリンピック・パラリンピックで必要とされるボランティアは、競技会場や選手村で競技運営や観客のサポートをする「大会ボランティア」が8万人、空港や会場の最寄り駅などで交通案内をする「都市ボランティア」が3万人となっていることから、スポーツボランティアの存在は不可欠である。

しかし、この日本においては、笹川スポーツ財団（2016年）の調査から、スポーツボランティアの実施希望率が「13.9%」、また実施率が「6.7%」と関心意識、参加率ともに低いことが問題となっている。

スポーツボランティアの関心意識が低い日本で、2020年東京オリンピック・パラリンピック含め、全体的にスポーツボランティア参加率をどう上げるか、特に10～20代の若い世代のスポーツボランティア参加意識を高めるためにはどうするか。私たちは、SNSを活用した情報発信を提案したい。また本提案は、東京オリンピック組織委員会をはじめとした、今後のスポーツ大会主催者やボランティア団体まで、広く活用いただけるよう留意して作成する。

## 2. 研究方法・結果

まず、スポーツボランティアとは、「報酬を目的としないで、クラブの団体や指導活動を支えたり、専門能力や時間などを進んで提供し、大会の運営を支える人のこと。」である。具体的には、大会運営や会場案内といった仕事がある。

このスポーツボランティアへの参加状況は、過去1年間を見ると「6.7%」（18歳以上）である。一方、笹川スポーツ財団によれば、見るスポーツは、「88%」、するスポーツは「72%」という数字が出ており、ボランティアに参加する人は圧倒的に少ないのが現状である。また、スポーツボランティア団体は現在、時間に余裕のある年配者が多く、若い世代の参加が少ないのが現状だ。なぜ、そのようなことが起きてしまうのか、2つの方法で調査を行った。

### （1）文献調査

書籍、新聞、雑誌の記事、インターネットなどによる文献調査を行い、ボランティアの現状、参加状況を明らかにし、その原因と課題の調査を行った。

(2) ヒアリング調査(2018年8月13日)

対象：NPO法人日本スポーツボランティアネットワーク

調査目的：(1) 文献調査で浮き彫りになった課題や今後の展望についてヒアリング調査を行った。

**【調査結果】**

一人々はなぜスポーツボランティアに参加しないのだろうかー

**(1) 応募を受け付けるホームページが使いづらい・わかりにくい**

例えば、「応募フォームの入力には約30分かかると注意書きされており、入力を進めると英語でSNSアカウントを入力するよう要求される。このようなシステムだと手間が掛かり、面倒に思い、応募を辞めてしまうのは致し方ないとわたしたちは感じた。

**(2) ボランティアをやる時間がないことが分かった。**

内閣府の市民の社会貢献に関する実態調査より、ボランティアに参加する時間がないと回答したのが、「53.8%」に及んでいる。

**(3) 若い世代のボランティア参加が少ないことが分かった。**

笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」によれば、20代のスポーツボランティア実施率が「5.2%」、30代「6.2%」、40代「11.9%」、50代「6.9%」、60代「8.4%」である。若い人のスポーツボランティア実施率が低いことは、スポーツボランティアネットワークに伺った際も、指摘があったが、その通りのデータであった。

**(4) 地域スポーツイベントのボランティアとプロスポーツチームボランティアの参加年齢層が異なる**

地域スポーツイベントのボランティアは、時間のある高齢者の参加が多い。プロスポーツチームボランティアは反対に若い世代が多い。若い世代が多い理由としては、SNSの充実しており、情報発信の場が多いことが考えられる。

**(5) 地域スポーツボランティア団体に所属している年齢層が高く、考え方が昔から変わっていないことが問題**である。なぜならば、若い世代の参加者がいないため、新規の参加者が入りにくい雰囲気がある。共通の話題がないと、参加していても上手に関係構築が出来ないと考えられる。

先に記したように、スポーツボランティアには様々な業務があり、高齢者が向いているものあれば、若者でないと、体力的に厳しいと思われるものもある。また、スポーツボランティアの文化を浸透させるためにも、多様な年齢構成が望ましいとわたしたちは考える。たとえば、10~20代が「30%」、30~40代が「30%」、50代以上が「40%」というような、特定の年代に偏りが無いような状況が理想的ではないだろうか。そのためには、若い人が、スポーツボランティアに興味関心を持つような仕掛け、取り組みが必要だということである。

### 3. 政策提言

そこで、わたしたちは、SNSを活用した情報発信方法を提案したい。

#### 大会主催者が SNS アカウント作成、情報の可視化

まずは大会主催者が、高齢者でないと、ボランティアの時間を取れないという現実をしっかり認識したうえで、若者にアピールする必要がある。そのためには、多くの若者が利用している SNS (LINE、Twitter、Instagram、Facebook 等) を活用するのが良いとわたしたちは考えた。

総務省の平成 29 年度版情報通信白書調査によれば、LINE、Twitter、Facebook 等のサービスの利用している割合を見ると、2016 年には「71.2%」となっている。40 代では、「78.3%」、50 代では、「60.6%」がいずれかのサービスを利用している。その中でも、20 代は「97.7%」がいずれかのサービスを利用しており、他の年代と比較すると、非常に高い数字となっている。つまり、若い人たちにアピールするには、LINE や Twitter、Facebook での発信が有効だということだ。

では、具体的にどのように、若者にアピールをするかということ、まずは、大会主催者が LINE や Twitter のアカウントを作成してスポーツボランティアの内容や様子を写真など使い投稿する。それにより、スポーツボランティアを身近に感じてもらい、スポーツボランティアの「必要性」や「楽しさ」、「幅広い世代と交流出来る場」であることを若い世代に知ってもらうのだ。

既に実例はいくつかあり、その中で興味深い例として、川崎フロンターレでは、ボランティア Twitter アカウントを利用して、発信をしている。同アカウントには、245 人が登録している。登録している年代は、15 歳から 80 歳までと幅広いことが特徴である。マスコットと共に活動しているボランティアの人が、マスコットの活動やボランティアの様子を写真や動画を使い投稿しているこのアカウントは、とても楽しそうな雰囲気を発信しており、フォロワーが 6000 人近い。こうした先進的な取り組みを、東京五輪組織委員会を含め、ボランティアを必要としている団体は、取り入れることを提案したい。



川崎フロンターレ : <https://twitter.com/kfvolunteer>

SNS での呼び掛けに応じた若者をネットワークすることにも留意したい。一度来て終わりでなく、来てくれたボランティアの LINE アカウント、Twitter アカウントなどを通じて、

連絡を取り合う、また、本人の許可を得た上で、他のスポーツイベントも含めたボランティアの告知をさせてもらうなどにも力を入れるべきだろう。わたしたちもそうだが、若者は、つながりや共感があれば、そこに参加しようと思う傾向にある。また、学生ボランティアを継続的に取り込むためのネットワーク作りも大切だ。

### 【期待される効果】

#### (1) スポーツボランティアの普及

SNSで発信することにより、スポーツボランティアに触れる機会を提供する。そうすることで、若い世代を中心に、スポーツボランティアの認知度、興味関心を高めることが出来る。

#### (2) 地域活性化に繋がる

認知度、興味関心が高まることにより、参加する人も増え、ボランティアを通し、スポーツ環境の充実化、世代間の理解を深める。世代が違くと、共通の話題がないため、世代を超えたつきあいは、仕事に限られてしまい、どうしても、つきあいに偏りが出る。しかし、若者のスポーツボランティア参加が増えれば、幅広い世代間での地域住民同士のコミュニケーションの場となる。

#### (3) 若者の社会貢献の機会となる

SNSを通じて、スポーツボランティアに関心興味を持った若者が参加する。そうなることで、若者の社会貢献の貴重な機会となる。

### 【参考文献】

笹川スポーツ財団(2016)スポーツライフデータ 2016 : (<https://www.ssf.or.jp/default.aspx>)

笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2012 : ([crt-japan.jp](http://crt-japan.jp))

川崎フロンターレ : (<https://twitter.com/kfvolunteer>)

総務省平成 29 年度情報通信白書 :

(<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h29/html/nc111130.html>)

まなべる みつかる スポボラ.net : (<https://spovol.net/>)

内閣府「市民の社会貢献に関する実態調査」

<https://www.npo-homepage.go.jp/toukei/shiminkouken-chousa/2016shiminkouken-chousa>